

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育型児童デイ ぼぶらの樹 遠里小野		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 22日		令和8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数) 5名	
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 22日		令和8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9名	(回答者数) 9名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた個別支援	子どもの発達段階や特性、興味関心に合わせた個別支援計画を作成し、オーダーメイドの療育を行っている点が大きな強みです。 「できること」を伸ばしながら、「困りごと」への具体的なサポートを行うことで、無理なく成長を促します。	定期的な発達評価と職員研修を通して専門性を高め、より精度の高い個別支援を実施する。
2	生活に直結した実践的な支援	日常生活動作(身支度・食事・コミュニケーションなど)や集団活動を通して、実生活で活かせる力を育てます。 遊びや活動を通じて自然に社会性や自己表現力を身につけられる環境づくりが特徴です。	将来を見据えた生活スキルの体系的な支援を行い、社会で生きる力の定着を図る。
3	保護者との連携・丁寧なサポート	療育は子どもだけでなく、保護者との連携も重視しています。 日々の様子の共有や相談支援を通じて、家庭での関わり方も一緒に考え、継続的な成長を支えます。	定期面談や保護者学習会を通して家庭との連携を深め、継続的な成長を支える。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全管理体制の再構築と危機意識の向上	大きな事故はないものの、災害や利用者の成長に伴う行動変化を見据え、環境面の安全基準や点検体制を再点検する。形式的な確認に留まらず、全職員が日常的に危険予測・気づきを共有できる仕組みを構築する。	ヒヤリハット事例の共有と定期研修を実施し、危険予測力を高めるとともに点検基準の明確化を図る。
2	書類業務の効率化による支援時間の確保	記録・書類作成に要する時間を見直し、ICT活用や様式の整理を進めることで業務負担を軽減する。支援の質を維持しつつ、子どもと向き合う時間を確保する体制づくりを行う。	書式の簡素化とICT活用を進め、記録時間を削減し支援時間を確保する。
3	家庭状況に応じた家族支援体制の強化	従来の懇談や送迎時の情報共有に加え、家庭環境やライフステージの変化に応じた計画的・積極的なアプローチを行う。相談しやすい体制を整え、支援の一貫性を高める。	面談機会の計画化と多様な相談方法の整備で家庭支援を強化する。